

# 戦気 NO-12

Fighting Spirit

発行者: 三谷大和  
 編集者: 岩井 淑  
 八千代市八千代台東1-44-13 三谷大和スポーツジム  
 電話 & Fax: 047(486)2476 ツヨクナロー  
 メール: mitani-y@khaki.plala.or.jp  
 URL: http://www.mitani-yamato.com/

マスコットの  
 ごんごちゃんです



## 12月21日 第55回全日本新人王決勝戦 斎藤司、フェザー級優勝 全日本でもMVP獲得 鬼ヶ島竜、ミニマム級優勝 三谷大和ジム 2階級制覇!



全日本新人王決勝戦でMVP受賞の斎藤司と鬼ヶ島竜

12月21日、ボクシングの聖地：後楽園ホールで『第55回全日本新人王決勝戦』が戦われた。ミニマム級からミドル級まで12階級の東西を制した新人王が日本一をかけ激突した。12試合の全てが判定決着という珍しい試合経過で最終12試合が終了したのは午後11時であり6時間に渡る激闘だった。それだけ東西のチャンピオンの実力が拮抗していた結果でもあった。全日本新人王に輝くと日本ランキングの10位にランキングされC級ボクサーが一気にA級ボクサーとなる。選手にとってはチャンピオンロードの登竜門なのだ。東西のチャンピオン同士が全力を出して戦う魂の燃焼と呼ぶに相応しい戦いの連続だった。



第1試合に登場したのは我が三谷ジムの小さな桃太郎：鬼ヶ島竜。対戦相手は畑中ジムの立松誠選手。試合内容は立松選手が小さなパンチを小刻みに出し続ける。鬼ヶ島は左右のフックやボディブローで立松選手を捕まえようとするが中々思うようにいかない。一進一退の攻防は最終5ラウンドまで纏れ込み判定結果は2：1で鬼ヶ島の判定勝ち。(49:47.48:47.47:49)



第7試合のフェザー級に我が三谷ジムの斎藤司が登場した。対戦相手は西日本のKOKINGの異名を取る中田ジムの渡辺巧選手。斎藤は東日本新人王決定戦でKO勝利しMVPを獲得したが、渡辺選手も西日本決定戦においてKO勝利を収め敢闘賞を獲得している。文字通りハードパンチャー同士の一騎打ちとなった。両者相譲らず5ラウンド判定の結果3：0(49:46,49:46,48:47)で斎藤の判定勝ち。司は東日本に続き全日本でもMVPを受賞した。授賞式に臨んだ司の両頬は紫色に腫れあがり激戦の跡を物語っていた。

### 三谷会長のコメント

鬼ヶ島、司、ふたりともよく戦った。この全日本決勝戦という舞台まではなかなかこれないんだけど、何があっても全日本を獲得という気持ちで二人にあった。100点の出来です。これまでは新人王を獲得練習してきたが、来年は日本ランキングを上げていく練習を一所懸命やりましょう。

12月8日のメロンの戦い方も100点の出来だった。メロンは決して巧くはないけれど、常に前へ前へ出て戦った。メロンの持ち味が出せた戦いだった。これからもこういう戦い方をしたい。

### 12月8日 大塚メロン貴光 4ラウンド判定勝ち



12月8日、大塚メロン貴光がWBC女子世界ダブルタイトルマッチの前座として後楽園ホールに登場した。対戦相手は野口ジムの加藤研二選手。

メロンのお父さんと弟が千葉茂原から駆けつけ最前列で熱視線を送るなかメロンは善戦した。1ラウンドは互角。2ラウンドでは左ボディ、左フックが度々決まりメロンのポイント。3ラウンドもコンビネーションや右フックが決まりメロンのポイント。4ラウンドは互角。結果は3：0(39:37,39:37,39:38)でメロンの判定勝ち。積極果敢に打って出たいい試合だった。

### メロンの言葉

今日勝てたのは山本さんのおかげです。山本さんが新人王戦を終えてからマンツーマンで教えてくれました。それと会長が1ヶ月という短い期間で今日の試合を組んでくれました。感謝しています。これで4勝し来年の新人王戦のシード権が取れたので、もう一度新人王戦に出場し思いっきり戦います。

### スケジュール

12月27日 三谷大和スポーツジム忘年会

### 編集後記

全日本新人王決定戦を観戦しました。思いっきり戦っている若者の姿は輝いていました。私は今年200試合ほど観戦しましたが真剣に戦っている選手の姿を見て気持ちが引き締まります。目標に向かって全力で燃焼していくことの素晴らしさを改めて感じます。来年も頑張ろう!

### 😊 ごんごちゃんは見たい !! 😊

スポーツ選手にとってメンタル面を自分自身で制御していくことの重要性が度々指摘されます。「セルフコーチング」の中に、目標に到達する手段として自分自身の気持ちを前向き・ポジティブに持つ「目的指向型心理」というものがあります。大リーグで活躍するイチロー選手が実践している自己制御方法ですが、自分の行動と結果を前向きに総括し次に続ける、という考えです。この考え方はスポーツ選手に限らず私たちの日常生活でもとても重要なことだと思います。